

教科	社会（小）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 問題解決的な学習過程の充実          単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習を充実させる。</p> <p>(2) 単元等のまとまりを見通した学びの重要性          主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。</p> <p>(3) 問いを意識する          問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が資料等を準備する際には、社会的事象の見方・考え方（「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、「比較・分類したり」、「総合したり」、「地域の人々や国民の生活と関連付けたり」すること（方法））に基づいて問いを意識することが大切である。</p> <p>(4) 言語活動の充実          社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習を一層重視することが大切である。</p> <p>(5) 実社会の人々との連携          博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすることが大切である。</p>	

教科	社会（中）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 問題解決的な学習過程の充実          単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させる。</p> <p>(2) 単元等のまとまりを見通した学びの重要性          単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。</p> <p>(3) 問いを意識する          問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元等の学習の問題はもとより、生徒の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が教材や資料を準備する際には、各分野における見方・考え方を踏まえた問いを意識することが大切である。</p> <p>(4) 言語活動の充実          社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視する。</p>	

# 「深い学び」を具現する授業デザイン例 社会（小）

## 学習指導要領における領域・内容

小学校 〔第4学年〕

- (1) ア (ア) 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47都道府県の名称と位置を理解すること。  
 イ (ア) 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

## 本時のねらい

福島県中通り地方・会津地方の桜の開花が「北から南」に広がる理由を話し合う活動を通して、県全体の地形に着目しながら県の地理的環境の特色を考え、表現することができる。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>福島県は日本の南の方と比べて、桜が咲くのが遅いね。</p> <p>確かに日本全体を見ると南から桜が咲いているね。南の方が、気温が高いからかな。</p> <p>でも「資料1」を見ると福島県は北から南に向かって桜が咲いている地域があるよ。どうしてだろう？</p> <p>(桃子さん)</p>	<p><b>資料1</b></p>  <p>(福島県統計課のホームページより)</p>	<p>これらは、日本全体の桜の開花時期と福島県内の桜の開花時期を示した地図です。</p> <p>※ 授業デザイン例上は県内の地図のみを記載</p> <p>桃子さん、よく気がきましたね。みなさん、桃子さんの伝えたいことが分かりますか。</p>
<p>④ どうして福島県の中通りと会津地方は北から南に向かって桜が咲くのかな？</p>		<p>まずは、自分の考え（予想）を書いてみましょう。</p>
<p>【その後の話し合い例】</p>		
<p>2022年の年間平均気温（「気象庁」ホームページ）を比べてみると、福島市は13.9℃、白河市は12.4℃だよ。</p> <p>他の年の平均気温も2℃ぐらい福島市が高いね。</p>		<p>でも、どうして福島市よりも南側にあるのに、白河市の気温の方が低いのでしょうか？</p> <p><b>視点O</b></p>
<p>確かに。それを説明できる資料が何かあれば・・・</p>	<p><b>視点⑩</b></p>	
<p>地形図を見ると、中通りは福島市より白河市の方が高い場所にある。山登りしたとき頂上が寒いと関係あるかも。</p>		<p>市の位置や県の地形に着目して桜の咲く時期と関連付けている考え方、すばらしいですね。気象予報士の大堀さんにインタビューした映像を見てみましょう。</p>
<p>会津地方も北側より南側の方が高いことが分かるよ。</p>		
<p>県の地形と気温、桜の咲く時期は何か関係がありそうだ。</p>		
<p>大堀さんのお話とみんなで話し合ったことがつながってきたぞ。</p>	<p><b>資料2</b> 【気象予報士の大堀さんのお話】                  福島県は、大きく3つの地方に分けられます。その地方の中でも位置だけではなく、標高や地形によって桜の咲く時期は変わってきます。私は他県出身ですが、福島県はそれぞれの地方に大きな特徴があります。調べてみると、多くの発見があると思いますよ。</p> 	<p><b>視点K</b></p>
<p>⑤ 福島県の中通りと会津地方は、南より北の方の土地が低い。そのため、南より北の気温が高く、北から桜がさきはじめる。</p>		
<p>福島県の地形図を見たり、友だちの考えや大堀さんのお話を聞いたりして、桜が北から南にさく理由が分かりました。これから自分の住む浜通り以外の地いきの生活についてもっと調べてみたいです。（子どもの「振り返り」より）</p>	<p><b>視点⑤</b></p>	<p>次の授業では、福島県についてもっと調べたいことをみんなで整理していきましょう。</p>
<p>本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問</p>		
<p>□ 本時は単元の導入部分における1単位時間を想定している。資料を比較する活動から子どもの「問い」を引き出し、全体で共有する。位置や空間的な広がり（地図や等高線等）、事象同士の相互関係（桜の開花時期と年間平均気温等）に着目し、それらを比較したり、関連付けたりする話し合いを通して、県の様子や地理的環境の特色を捉え、次時における単元の学習問題をつくる活動につなげることができるようにする。（視点O→視点⑩、視点K→視点⑤）</p>		